

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571000276		
法人名	有限会社 山幸興産		
事業所名	グループホーム室積なかよかん		
所在地	光市室積松原8番1号		
自己評価作成日	令和2年2月22日	評価結果市町受理日	令和2年6月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査日	令和2年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な室積という環境の中、海や松原に囲まれ季節を感じてのどかに暮らしていただけるような恵まれた立地にあります。気候が良いときには近所に散歩に出かけたり、お花見など近隣に車で出かけることもあります。食事は3食とも台所で手作りしており、家庭的で旬の食材をつかった季節感のある食事作りを心掛けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念「安心できる、おだやかな暮らしをめざし、自分らしく暮らせるためのお手伝いをします。できるだけ自己決定できるよう援助します。家族や地域とのかかわりを大切にします。」に基づいて、利用者の「好きなこと」「してみたいこと」「食べたいもの」など本人の意向を大切にされ、利用者が自分らしく暮らせるよう支援されています。食事は、利用者の希望を取り入れられ、職員が献立を立てられて、旬な物や差し入れの野菜を使用され、三食とも事業所で調理されています。おせち料理や節分の恵方巻、七夕のソーメン、クリスマスのナゲットワンプレート、誕生日会のちらし寿司とケーキなどの季節の行事食、家族の協力得ての外食や友人との食事など、食事を楽しむことができる支援をされています。利用者の活躍できる場面づくりや楽しみの支援として、テレビの視聴、趣味演芸の雑誌を読む、チラシを見る、歌を歌う、カラオケ、習字、カルタ、ぬり絵、テレビ体操、口腔体操、足首や肩の運動、風船バレー、計算ドリル、ことば遊び、季節に合わせた飾りづくり、節分の豆まき、雛祭り、端午の五月人形、七夕飾り、クリスマスの工作、洗濯物たたみ、新聞たたみ、利用者自身がトイレに行った時間の記録、ボランティアや地域の人との交流など、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるような場面づくりに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	☐	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で、「自分なら・・・」「自分の親が入るなら・・・」と考えて、「安心できる穏やかな暮らし」を目指している	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の職員会議で理念を確認し、共有している。職員は、利用者の「好きなこと」「してみたいこと」「食べたいもの」等本人の意向を大切にし、利用者が自分らしく暮らせるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として自治会館の鍵の置き場所に協力したり、行事の時に近所の方に声をかけたり、手作りのお野菜の差し入れをさせていただいたりしている。	自治会に加入し、ごみステーションの利用や回覧板を回し、自治会館のカギの管理をしている他、職員は年2回地区の清掃に参加している。利用者は、地元の夏と秋の祭りの時に回ってくる八幡様の神輿や近隣の梅まつりに参加している他、隣接する法人施設に来訪するボランティアの演奏(歌、フルート、バイオリン)を鑑賞したり、敬老会の人形劇やクリスマス会のハンドベルの演奏では、近所の人にも声をかけ交流している。地域の人が事業所の庭の花壇の手入れする時には声をかけたり、周囲の散歩時に地域の人と挨拶を交わしている他、地域の人から、野菜の差し入れがあるなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の徘徊模擬訓練に参加したり、ご近所の方の入院後の行き先について相談されたりしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	日々の業務を見直す機会としたり、外部評価の際にご教示いただいたことを改善につなげている。	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価をするための書類を全職員へ配布し、それぞれが記入したものを管理者がまとめ、職員会議で話し合っている。評価を通して、重度化への対応における同意書の作成や外出支援時の工夫、災害時の対応の見直し、運営推進会議メンバーの拡大など、改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や地区社協の会長にご参加いただき、情報交換などを行っている。	会議は、年6回、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催し、利用者の状況や活動報告、事故報告、外部評価の報告、避難訓練の状況について説明し、意見交換を行っている。前回の外部評価による改善課題でもあったメンバーの拡大では、社会福祉協議会や事業所のメンバーが増え、地区社協の行事(いきいきサロン)へ参加したり、カラオケを借りるなど、新たな交流が広がっている。	・会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険係と、窓口や電話にて相談、ご利用者の紹介等やり取りを行っている。	市担当者とは、運営推進会議出席時や書類提出時に直接出向いて相談や助言を得ている他、電話やメールで情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、市主催の研修会や徘徊模擬訓練参加時、電話、メールで情報交換しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を整備し、職員にも研修を通し拘束の弊害を共有している。代替できる方法はないか検討し、拘束をしないようにしている。	「身体拘束排除マニュアル」を作成し、職員は年6回の身体拘束適正化委員会での話し合いや年2回の内部研修で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて、気になる場合があれば職員間で注意し合ったり、管理者が指導している。玄関は施錠せず、外出したい利用者があれば職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施しており、虐待にあたるような言動がないか職員がお互いに注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に研修をしているが、職員間で権利擁護に関して話し合うことがなく、活用はできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書、重要事項説明書、個人情報保護に関しての書面について説明し、同意を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、請求書送付時に意見書を同封している。苦情窓口は契約時に説明し、建物内にも掲示している。相談等についてもなるべくご家族が納得されるように説明をしている。	契約時に、相談・苦情の受付体制や相談窓口、処理手続きなどを家族に説明している。意見箱を設置している。家族からは、面会時や毎月の利用料支払い時、事業所行事参加時、電話などで意見や要望を聞いている。毎月の請求書の送付時には、家族の意見の記入欄を設けているなど、家族から意見が出しやすいように工夫している。家族からは、利用者の洋服に関することや通院時の車イスの貸し出し、介護タクシーのことなど、ケアに関する意見があり、その都度職員で話し合って対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に意見や提案をしてもらい対応するようにしている。	管理者は、月1回の職員会議で職員からの意見や提案を聞いている他、日々の業務の中でも職員が意見を言いやすい環境を整えている。車イスの修繕、利用者の重度化に伴う入浴時間の改善、職員の勤務体制や休暇の取得など、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務日程はできるだけ本人の希望を反映させている。得意な分野で活躍できるようにしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では担当者を決め、必要とされるものや興味のある分野の内容に取り組んでもらい、職員全員の取り組む姿勢の変化がみられた。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の希望や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供している。「災害時の対応」についての研修受講後には、職員会議で復命し、事業所の防災計画の見直しを行っている。内部研修は、年間計画にそって、年8回、身体拘束、虐待について、尿失禁、便秘解消法、感染症対策、転倒事故への対応、避難誘導の見直しなどについて、常勤職員が順番に講師を務めて、実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「光市認知症高齢者グループホーム協議会」に参加し、施設間の交流や意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前ケアマネ、病院・施設の相談員からの情報、アセスメント、ご家族からの情報や要望等を聞いて初期の関係づくりをしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や入居の準備段階で、ご本人やご家族とお話をして要望や不安を聞いてそれが解消できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ここの待機状況や他施設、他サービスも含めて必要とされる支援を提案している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と職員が互いに手伝ったり助けてもらうことで、支えあう関係を作っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に外出や通院、面会（親戚、親しい友人等）の支援をお願いしながら、ご家族との関係が続くよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に親しい方との面会や外出の橋渡しをお願いしたり、ずっと通っていた美容院へ行く事を援助していただいたりしている。	家族の面会や親戚の人、趣味の仲間、友人、近所の人の来訪がある他、年賀状や電話の取次ぎでの交流を支援している。家族の協力を得て、外出、外食、友人との会食、馴染みの美容院の利用、法事への出席など、これまでの馴染み人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	よく話をする方と席を近づけたり、コミュニケーションがうまく取れない時には間に入ったりしながら支援をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他施設に移られても必要とされる情報を提供したり、ご家族からの相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中でご本人がどのようなことを必要とされているか、ご家族とお話をしてその中から想いや移行を把握しようとしている。	入居時のフェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日々の関わり中で利用者の行動や表情、会話を「行動・介護記録」及び特記事項に記録して、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から聞き取り、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネ、病院・施設の相談員からの情報やご家族とお話をして情報を得ている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り、連絡ノートを利用して現状を把握し、職員全員に共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係者の方とお話や、日々の生活の中での問題点について、職員会議で話し合いの中で出た意見をもとに介護計画を作成している。	月1回の職員会議でのカンファレンスで利用者のケアの内容を検討している。「行動・介護記録」や特記事項を基に、利用者や家族の思いや意向、主治医、薬剤師の意見を参考にして、サービス担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状態に変化があるときはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に特記事項を記入し、いつもの状態を知った上でそれぞれの変化を把握して見直しにつなげている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や関係者、医療機関等とも連携しながら、できる事を支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近場の公園や公共施設、周辺の景色のよさ、マンパワーを利用して支援につなげている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や定期的な受診により日頃の健康維持をしている。主治医と連携し、ご家族にもご協力いただきながら適切な医療を受けられるようにしている。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは、2週間に1回訪問診療があり、その他のかかりつけ医からは、月1回の往診がある。他科受診は、家族の協力を得て行い、協力歯科については希望があれば受診している。家族が遠方の場合には事業所で受診を支援し、結果は電話で報告している。夜間や緊急時は、管理者を中心に協力医療機関やかかりつけ医の指示を仰いで対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師に、体調不良等の相談、処置、や受診の判断等をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連携を取り、情報交換や退院前にご本人の状態の確認をして受け入れの準備を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療も含めてここでできること、できないことをお話しし、主治医、病院の相談員、他施設の相談員と連携して、ご本人やご家族にとって最善の選択ができるよう支援している。	契約時に、重度化した場合に事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、主治医と話し合い、医療機関や施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	起こってしまった事故や、ヒヤリハットと事例から、次に同じような事故が起こらないよう検討し、対策を考えている。	事例が発生した場合は、ヒヤリハット報告書、事故報告書に、対応した職員が記録し、管理者に報告した後に、他の職員に回覧し、申し送りで伝えて情報を共有している。月1回の職員会議で再検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故対応については、内部研修で感染症や転倒事故について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応など実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	個別の避難方法を定期的に見直し、避難訓練時にはそれを実行している。避難訓練時には自治会の方にご参加いただいている。	年1回、事業所として夜間の火災を想定した避難訓練を利用者も参加して実施している。法人施設の館長は地元の消防団に所属しており、地域住民との協力体制を構築し災害時に備えている。外部研修の復命研修で防災計画を見直し災害時の備蓄について検討し、食糧品や水などの備蓄を増加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ誘導時には、プライバシーを損ねないよう配慮している。声掛けをする時には、その方の性格や関係性も踏まえて対応している。	職員は、「プライバシー保護マニュアル」に基づき、プライバシーに関するチェックリストを活用して言葉づかいに気をつけ、利用者の誇りを傷つけない言葉かけや対応をしている。文書類等は鍵をかけるなど適切に保管し、守秘義務を順守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方には2択3択と絞った中から選択していただいたり、日常のコミュニケーションをとりながら自己決定を促している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、個々に合わせて居室での休息やトイレ誘導等支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な衣類の機能をご家族にお伝えして準備していただいている。入浴後のお肌のお手入れも個々に応じて行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食中毒の防止もあり現在は準備と一緒にやっていない。全員が車いす等を使用しており、片付けはできていない。献立は季節が感じられるものを盛り込むようにしている。希望メニューを取り入れることもある。	食事は、利用者の希望を取り入れて、職員が献立を立て、旬な物や差し入れの野菜を使用して、三食とも事業所で調理している。季節の行事食(おせち料理、節分の恵方巻、七夕のソーメン、クリスマスのナゲットワンプレート、誕生日会のちらし寿司とケーキ)や家族の協力得ての外食、友人との食事に出かけているなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を多用し、栄養バランスを考えている。食べる量、形状、器等ご本人に合ったものを提供している。水分は一日を通して摂取を促している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の食事後に、その方に合った場所、方法でできるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人に応じた排泄パターン、方法で支援している。汚染が減るようなタイミングやパットの使用方法を変えながら支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動等により自然に排便できるよう支援しているが、服薬でコントロールすることもある。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	以前より入浴に要する時間がかかるようになり、週6→3に変更してゆっくりと入浴できるようにした。入浴出来ない日は、陰拭やパットの更新で対応している。	入浴は、日曜日を除く毎日、9時50分から10時50分、14時30分から15時30分までの間可能で、その日の行事や利用者の希望や体調に合わせて週3回は入浴できるよう支援している。利用者の状態によって、シャワー浴や清拭、足浴など個々に対応している。入浴剤を使ったり、柚子湯など季節に応じた対応をして、ゆっくり、くつろいで入浴できるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や浮腫・褥瘡の状態により昼食後に居室で臥床したり、入眠の時間を変えている。リネンの選択や布団乾燥により気持ちよく入眠できるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成し、服用中の薬の情報が確認できるようにしている。調剤薬局と連携が取れており、些細な事でも確認や相談が出来る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業、レクなどご本人の意向や能力に合わせて準備している。ご家族と協力し外出支援を行っている。誕生日や行事を皆さんで楽しめるよう支援している。	テレビ(歌番組、NHKの朝ドラ、ワイドショー、時代劇)の視聴、趣味演芸の雑誌を読む、チラシを見る、歌を歌う、カラオケ、習字、カルタ、ぬり絵、テレビ体操、口腔体操、足首や肩の運動、風船バレー、計算ドリル、ことば遊び、季節に合わせた立体的な飾りづくり、節分の豆まき、雛祭り、端午の五月人形、七夕飾り、クリスマスの工作、洗濯物たたみ、新聞たたみ、利用者自身がトイレに行った時間を記録する、ボランティアや地域の人との交流など、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるような場面づくりを行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にもご協力いただき、ご本人の希望する外出を支援している。散歩や外出は天候とご本人の希望で決めている。	近くの海岸への散歩、島田川、梅園へのドライブ、季節の花見(梅、桜、菜の花)、地元の祭りの見学、八幡様、家族の協力を得ての外出や外食など、家族と協力して戸外へ出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族に希望があれば、金庫にてお預かりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状でやりとりできるよう支援している。友人等との電話連絡もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度管理はエアコンや加湿器を使用して行っている。壁面には季節を感じさせる作品等を一緒に作って展示している。また不快な匂いがないよう、掃除や換気、消臭等を行っている。	玄関には、ひな人形など季節の飾りつけや花を生けるなどして、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。共用空間にはぬり絵や折り紙、習字など利用者の作品や行事の写真、立体的な季節の飾りつけをして季節感を出している。テレビを囲んで座れるようにソファやイスを置き、皆で歌を歌ったり、利用者同士で会話を楽しむことができる。キッチンからは、調理の匂いや音がして生活感がある。トイレは、掃除が行き届いていて、匂いがしないよう配慮している。温度や湿度、換気に配慮して利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、ダイニングと居間で好きなどところに座って他者との会話を楽しんだりしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合わせて馴染みのものを持ってきてもらったり、ご本人の状態に合わせたものをご準備いただいている。レクで作った作品や誕生日の色紙等を居室の壁面に掲示している部屋もある。	整理ダンス、簾ダンス、時計、テレビ、化粧品、アルバム、カレンダーなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族や孫の写真、誕生日の色紙を飾って、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、難しいこと、わかること、わからないことを把握し、居室やトイレの表示をしたり援助を行っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム室積なかよかん

作成日: 令和 2 年 6 月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (15)	全職員が応急手当や初期対応など実践力をつけられていない	応急処置応急処置や初期対応の定期的な訓練を行い全職員が実践力を身につける	・AEDを使用した心肺蘇生訓練 ・気道異物除去、骨折、出血等の初期対応の訓練	1年
2	5 (4)	運営推進会議を活かした取り組みができていない	運営推進会議の参加者を柔軟に募り、事業所への意見や地域とのつながりに活用していく	・参加者の拡充 ・会議の内容を充実させる	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。